

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>I 理念に基づく運営</b>			
	<b>1. 理念の共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あんしんの家、すてきな出会い、かていの雰囲気」を理念として掲げ入所者、その家族、地域住民の方々との交流をよりよいものとしている。		定例会や申し送り時などに理念に必ず触れ、確認し合っている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者、職員との信頼関係を大切にし、地域住民が気軽に立ち寄って下さる家庭的な雰囲気を心掛けている。		地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域社会との関係を保っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットに明示している。他玄関に掲示している。入所時、家族に説明すると共に来訪時継続的に話し、月1回ホーム便りに明示している。		
	<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関にベンチを設置し、気軽に立ち寄れるようしている。又、玄関を開放している。		散歩などで近隣の人たちと挨拶を交わしたり、野菜を貰ったりしながら、近隣の人たちと触れ合っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動に参加する。他、地域の方々を招き、バーベキューなど行い交流を深めている。		近隣の保育園児が遊びに来たり、地区の中学生がボランティアとして活動しに来てくれる。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に取り組んではいないが、相談があればそのつど応じている。		施設長が地域の相談員として経験を活かし、認知症の相談も受けている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	常に日々の自己評価や外部評価により介護の質、QOLの向上につながると理解し取り組んでいる。		自己評価を全職員で行い、質の向上に努めている。外部評価の結果は定例会で報告し、改善に向けて検討など努力している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に地区住民代表・市職員、有識者に参加してもらい意見を聞き、サービス向上に活かしている。		現在取り組んでいる内容についても報告し、意見を聞いている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地区担当者と定期的に顔を合わせ、質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定例会で勉強したり管理者より学んだりし活用できるよう支援している。		活用している利用者があり、支援に結びつけている。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、レポート等にまとめて学習している。又、常に虐待について念頭に置き、防止に努めている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な理解や納得をしていただき、契約・解約をしていただいている。		利用料金や医療連携体制などについて説明同意を得、事業所の考え方や取り組み、退居の際など詳しく説明している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の暮らしの中で、不満はないか全入居者に声かけなどを行い反映させている。		入居者の言葉や態度からその思いを察するよう努力している。出された意見は日々のケアに活かしている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度、各家族に向けて、利用者の写真や健康状態をホーム便りにして送っている。特変ある際はその都度連絡している。		あすか便りにて月1回報告をし、面会時にはケース記録を見て貰い、買い物は領収書を送付している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの苦情受付、窓口を「重要事項説明書」に明示し、市や国保連合会の窓口も玄関に掲示している。又、玄関に意見箱も設置している。		家族には何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等は反映させている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会時に意見や提案など話し合い、反映させている。		定例会や個別面談を行い、意見を聞くようにしている。コミュニケーションを図るよう心掛けている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に柔軟な対応ができるよう努めている。		入居者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の気持ちも第一に考え必要最小限に抑える努力をしている。		異動や離職がやむをえない場合、時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数を考慮し個々に合った研修を受ける機会を確保している。		研修会には多くの職員が受講できるようにしている。研修報告は会議で発表している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に加入し定期的な勉強会に参加している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員がストレスをためないように常に気を配っている。また、外部の勉強会等に積極的に職員を参加させ、リフレッシュさせている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が気持ち良く働けるよう常に個々の状況を把握することに努めている。		職員の資格取得に向けた支援を行っている。運営者も頻繁に現場に顔を出し、入居者と過ごすなどし、ホームのことを把握している。
	<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と何度も話し合いの場を設けながら、不安や困っていること等を聴き、受けとめる努力をしている。		職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と何度も話し合いの場を設けながら、不安や困っていること等を聴き、受けとめる努力をしている。		ご家族が求めているものを理解し、どのような対応を求めているか話し合いをしている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が必要としている支援を話し合いの中で見極め、支援している。		本人やご家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談の中で信頼関係を築きながら対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	細かい事を家族から聞き、また相談しながら本人が安心し納得した上で利用できるよう努力している。		本人や家族にホームを見学してもらうことから始め、安心感を持ってもらっている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日中は、共有空間にて一緒に過ごし、会話をしたり、一緒に食事の準備などしながら常に支え合う関係を築いていくよう努めている。		人生の先輩と職員が認識しており、協働しながら生活できるようにしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	各行事には家族を招待し、共に楽しむ機械を設けたり、面会時などには、相談しながら本人を支えていく関係を築いていくよう努めている。		日々の暮らしの出来事や気づきの共有に努め、家族と同じ思いで支援している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との生活歴など知り、理解した上でよりよい関係が築いていけるように支援している。		行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望がある際には、出来るだけ希望に添えるよう努めている。		利用していた美理容院に行ったり馴染みの店に買い物に出かけたりしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共有空間にて、家事を手伝っていただいたり、ドライブなどで親睦を深めたりしている。また、トラブルがあった際には職員が間に入り迅速な対応が出来るよう努めている。		気の合う者同士で過ごせる場面づくりをしたり、入居者同士の関係がうまくいくよう支援している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行事など招待するよう努めている。		行事に招待したり遊びに来てもらう。また、遊びに行ったりしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望、意向を把握し、実行できるよう努めている。		日々の関わりの中で言葉や表情などで把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの生活歴や生活環境などを聞き、基本情報としてまとめて把握している。		自宅に訪問したり、ご本人やご家族から聞き取るようにしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	健康状態や残存能力など、個々の現状を現状を把握するよう努めている。		一人ひとりの生活リズムを理解し、出来ることに注目している。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意見を尊重し、家族や職員と話し合いながら、より良く暮らせるための介護計画を作成できるよう努めている。		ご本人や家族の意見を反映できるよう努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回見直ししており、改善点など本人や家族、職員と話し合いながら、現状に即した計画を作成できるよう努めている。		ご家族や本人の要望を取り入れ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した場合には終了する前でも検討、見直しを行っている。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記入し、定例会や職員間での情報共有に活かしながら、実践や計画の見直しに反映させている。		食事、排泄等身体的状況および日々の暮らしの様子や言葉を記録している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族のその時々状況、要望に応じ、柔軟な支援が出来るよう努めている。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の中学生との交流の機会を設けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	している。		成年後見制度を利用している入居者がいるため、地域包括支援センターと協力して支援している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	遠方からの利用者には、本人のかかりつけ医への受診継続し、家族と本人の意向を受け入れている。		本人やご家族が希望しているかかりつけ医となっている。受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対応している。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月1回、専門医の診察を受け、更に変化のある際はすぐに受診できるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常時勤務している看護師に相談しながら支援している。		看護職員を配置しており、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族や医療機関の医師、看護師と情報交換し、早期退院に向けた支援を行っている。		入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結びつけている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針については検討中である。		支援方法を踏まえて、方針を話し合っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現段階ではまだ重度化や終末期を迎える利用者がいないため今後に備えて検討中である。		本人の気持ちを大切に、家族と話し合い検討中である。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから他の施設へ移る際、十分な話し合いや情報交換を密に行っている。		生活環境、支援の内容等、情報提供し連携を心掛けている。
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の理解力に合わせた声掛けや誘導に心掛け、ケース記録、基本情報などは保管場所にて管理している。		定例会の折り、職員の意識向上を図り、日々の関わりの中で入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望や想いを聞き、間違ったことに対しては納得できるよう説明している。		入居者に合わせた声かけを行い、表情を読み取り複数の選択肢を提案し、自分で決める場面をつくっている。(ボード利用)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の自己決定に合わせ、出来るところはなるべく支援できるよう心掛けている。		買い物や散歩などその時の本人の気持ちを尊重して、個別性のある支援を行い十分な対応をしている。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床時の整容、洋服選びなど、個々の能力で出来るところはしていただき、希望ある時に散髪にも行けるよう努めている。		個々の生活習慣に合わせ支援し本人の馴染みの理美容院でカットや毛染めをしてもらえるよう連携をとっている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に出来る範囲で手伝いをしていただいている。		調理、盛り付け、片付け等入居者と共に行い、楽しい食事を心掛けている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日おやつの時間を設けており、また夕食時にはお酒を好む方には晩酌を楽しんでいただいている。		一人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の希望に添ってそれらを楽しめるように支援している。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄記録を行い、排泄パターンを把握している。また、時間をみて、定期的に排泄を促している。		排泄チェック表を使用し、トイレで排泄できるよう支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回行っているが、希望あればそれ以外でも対応している。		入浴したい日や希望する時間に入浴していただいている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝など、個々に合った1日を送れるよう心掛けている。		個々の体調、表情、希望等考慮し、ゆっくりとした休息がとれるように支援している。添い寝などもおこなっている。
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人にあった趣味や能力を知り、無理ないよう見守りながら支援している。		食事作りや畑仕事等入居者の経験を発揮する場面をつくっている。感謝の言葉も伝えるようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持つ力がない入居者には施設側で管理している。		小額のお金を手元に持ち、買い物など自分で払っていただいている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや施設周辺を散歩したりしている。また、希望がある際は買い物に出かけている。		本人の希望に応じて、散歩、買い物、ドライブに出かけている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出や自宅への外泊など、密に連絡を取り合い支援している。		計画をたて家族の協力を得ながら支援している。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の応対はいつでも対応出来ている。また月1回の便りにて状況を報告している。		年賀状、暑中見舞いは欠かさず行き、入居者の希望に応じて電話等支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関はいつでも出入り出来るようにしており、面会者ある際は、居室にてゆっくりしていただけるよう、お茶など出している。		ご家族の都合のいい時間帯にいつでもたずねて来て頂けるようにしている。
	(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については定例会などで細かく学習し、正しく理解できている。		定例会時に勉強会を行っており、職員の共有認識を図っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はつけていない。また玄関も日中はオープンにしている。		職員の見守りを徹底させている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間の連携により、常に入居者の所在や様子を把握している。		職員は入居者と同じ場所で過ごし、状況は常に把握している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り扱いが困難な物は職員が管理している。 (刃物など)		入居者の状況変化によって注意を促している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人ひとりの状況を把握し、どのような行動をするか認識し、対処法を職員で考え取り組んでいる。		ヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	連絡網や応急手当など各ユニットに提示してある。		夜勤者の緊急時対応について、マニュアルを作成し、応急手当の勉強会に参加している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防設備会社や消防署を招き、訓練をしている。		避難路の確保、消火器の設備点検を定期的に行っている。協力体制については、運営推進会議や町内会にお願いしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に説明を行い、状態が変わる度に変化に応じたサービスをする事を家族に伝えてある。		自由な暮らしの大切さとホームの取り組みを説明し、理解を得ている。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを欠かさず行い、入居者の状況を個人ケースに記入して情報を共有し対応している。		毎日バイタルチェックを行い記録をつけ状況により医療受診につなげている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに挟んでいる。また処方箋が変わった際には、副作用など、全職員が把握できるよう努めている。		薬の処方や用量が変更されたり、状態変化がみられる時は、いつもよりも詳細な記録をとるようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳、食物繊維など、便秘予防に努めている。また、重度の入居者については医師と相談し、チェック表を用いて医師の指示を受けている。		繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、身体を動かす機会を設けて、自然排便出来るよう取り組んでいる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けし、歯磨き、うがいをしていただいている。入れ歯は毎晩ポリドントに浸け、清潔保持に努めている。		口腔ケアの重要性を職員が理解して、行っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ食や、個人の状態に合わせ摂取していただいている。また1日数回水分摂取し、1日必要な水分量に近づけるよう努めている。		食事や水分摂取状況をチェック表に記録している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、疫病別の予防、対応の取り決めがある。うがい、手指消毒を励行し、インフルエンザの予防接種も受けている。		マニュアルを作成し予防に努めている。ペーパータオルを使用している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮なもの、日持ちのするものを選び、食中毒予防を心掛けている。また消毒チェック表を作り、衛生管理にも努めている。		まな板やふきん等は、毎晩漂白し清潔を心がけている。また、食材の残りは鮮度や状態を確認し、台所水周りの清潔、保つようにしている。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	高い位置に看板を設置しており、分かりやすいようにしている。また、玄関はガラスの自動ドアになっており、外から中が見えるよう工夫している。		玄関にベンチやプランターなどを置いている。明るい雰囲気のある玄関になるように工夫している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や観葉植物を飾り、季節感を取り入れるよう努力している。		家具の配置など入居者と一緒に考え、入居者が自分の家だという認識を高めてもらうようにしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室と共有空間をいつでも行き来でき、気の合った入所者同士が隣に座り、落ち着ける場を設けている。		玄関や廊下に椅子やソファを置き、気の合う者同士くつろげる居心地の良い空間を作っている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や手作りの物を飾り、過ごしやすいよう工夫している。		写真や使い慣れた日用品が部屋に持ち込まれ、居心地のいいように配慮している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に温度調節を心掛け、小まめに換気を行っている。又天気の良い日は布団や畳を干し、失禁に対してはすばやく対処している。各部屋や共有空間に温度計を設置している。		トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ないように工夫している。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手すりをつけ、リハビリを兼ねて運動できるよう工夫している。		生活環境のあらゆるところに、入居者の自立を意識し、安全確保を行っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には写真入の名札を掲げ、混乱、間違いのないように工夫している。		居室の入り口に写真と名前をつけている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にベンチを置き、天気の良い日は外で過ごしている。		庭に花を植えたり、畑を確保し日常的に楽しみながら活動できるようにしている。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 ○ 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない